



国土交通省
国土地理院

国土地理院広報

2022年6月発行

第648号



測量体験イベント「GPSで地上絵を描こう！」を開催

CONTENTS

1. 第235回地震予知連絡会の開催概要 2
2. 「測量の日」関連行事を実施
 - 「測量の日」特別企画 ～楽しく学ぶ地図と測量2022～ 3
 - 「測量の日」における功労者感謝状贈呈式を開催 4
 - 「日本水準原点」の一般公開 5
 - 第28回「くらしと測量・地図展」を開催 6
3. 令和4年春の叙勲・褒章 7
4. 「自然災害伝承碑」のウェブ地図「地理院地図」公開数 7
5. 5月の報道発表・7月の主な行事予定 7

国土地理院は、新型コロナウイルス感染拡大防止をはかるため、制限を設けたイベント等の開催、テレワークの活用等による人との接触を低減する取り組みを実施しています。

第235回地震予知連絡会の開催概要

令和4年5月16日、関東地方測量部（東京都千代田区）地震予知連絡会大会議室において第235回地震予知連絡会が開催（オンライン会議併用）され、最近の地殻活動モニタリングに関する報告のほか、「東北日本日本海側の地殻変動」が重点検討課題として議論されました。



第 235 回地震予知連絡会（オンライン会議併用）

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「[東北日本日本海側の地殻活動](#)」を課題とし、東北日本日本海側の震源断層モデルの構築とリスクコミュニケーション、強震動予測、津波予測、プレート間相互作用による震源断層への応力蓄積に関する報告が行われ、2020年12月以降に能登半島で活発化している地震活動の解釈や東北日本日本海側における地殻活動の今後の研究課題についての議論が行われました。

① [東北日本背弧域での震源断層モデルの構築と実施したリスクコミュニケーション会議](#)

日本海と沿岸域で発生する地震・津波災害の予測の基礎となる震源断層モデルの構築、日本海形成期の造構プロセスが震源断層の形状・特性に与える影響が大きいことについて報告されました。また、日本海沿岸9道府県での防災関係機関担当者が参加したリスクコミュニケーション会議について紹介されました。

② [東北日本背弧域の震源断層モデルに基づく強震動予測](#)

北海道沖、青森沖～佐渡沖、富山沖、福井沖～鳥取沖、島根沖～五島列島沖の震源断層モデルに対する強震動予測の実施、日本海側堆積平野等で微動アレイ観測等による地下構造モデルの高度化の推進、自治体震度波形データを収集し地震波サイト増幅特性の評価を実施したことについて報告されました。

③ [東北日本背弧域の震源断層モデルに基づく確定論・確率論的津波予測](#)

日本海で発生した20世紀の地震について、観測された津波波形や遡上高分布の比較結果について報告されました。また、確定論的（シナリオ型）津波予測については、用いる断層の形状や仮定の違いによって、すべり量や津波高に違いが出ることで、日本海沿岸の中で東北地方が最も大きな津波高を示すことが報告されました。

④ [日本海溝におけるプレート間相互作用による東北日本背弧域の震源断層への応力蓄積](#)

日本列島域の構造を考慮した有限要素モデルによる東北日本の地殻変動データ解析を行い、2011年東北沖地震の前後について、東北日本背弧域の震源断層にかかる応力を計算した結果、震源断層上の応力の変化は、2011年以前のM7内陸地震の頻発と2011年以降の静穏化を概ね説明できることが報告されました。

○次回の会議開催予定

第236回地震予知連絡会は、8月29日（月）に開催予定です。その際の重点検討課題は「[光ファイバーセンシング技術の地震・測地学への応用](#)」です。

○会議資料の公開

本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html>

地震予知連絡会

検索

（地理地殻活動研究センター）

「測量の日」関連行事を実施

「測量の日」特別企画 ～楽しく学ぶ地図と測量2022～

6月5日、国土地理院「地図と測量の科学館」（つくば市）において、「測量の日」特別企画～楽しく学ぶ地図と測量2022～を開催し、250名を超える方にご来場をいただきました。

「測量の日」特別企画は、国土地理院が提供している様々な地理空間情報を分かりやすく紹介するとともに、子どもから大人まで楽しみながら地図と測量に関する体験ができる企画です。6月3日の「測量の日」にあわせて毎年6月の第一日曜日に開催しています。

一昨年は中止、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、動画等のコンテンツを集約したオンライン公開を主として開催しましたが、今年は事前申込制による小・中学生を対象とした測量体験イベント「GPSで地上絵を描こう!」を実施しました。

イベントは午前と午後の2回行いました。午前6組、午後9組の総勢41名にご参加いただきました。



イベント説明中

今回のイベントは、ハンディGPSを使って屋外を歩き、歩いた軌跡を空中写真上に表示させて地上絵を描くという内容です。

まずは、どんな絵にするかを設計図に描いてもらいます。



設計図に予想図を描く

設計図ができた人から屋外のグラウンドで作図を始めます。



歩くコース打ち合わせ中?

設計図と同じ形になるように一歩ずつ歩いていきます。子供たちばかりでなく、保護者の方たちも熱心に取り組み、完成度の高い地上絵が数多く作成されました。



作品例 幸せを呼ぶ四つ葉のクローバー

GPSの受信データは、担当職員によってパソコンに取り込まれ、地上絵としてプリントし参加者にお渡ししました。



国土地理院では、このような楽しいイベントを今後も企画していきます。みなさまのご参加をお待ちしています。



地図と測量の科学館のHP

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>



QRコードからもアクセスできます。

(総務部)

「測量の日」における功労者感謝状贈呈式を開催

国土地理院は、測量や地図に対する国民の一層の理解と関心を高めることを目的に、測量の日を制定した平成元年度から、測量や地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、国土地理院長から感謝状を贈呈しています。

令和4年度の贈呈者は個人2名、2団体の方々に決定し、6月3日に関東地方測量部で、6月8日に近畿地方測量部で贈呈式を行いました。

(贈呈理由は報道発表を参照：[令和4年度測量・地図の感謝状贈呈者決定～「測量の日」関連行事を実施～](#))

6月3日 関東地方測量部

◆柴田 祥彦しばた よしひこ(東京都立三鷹中等教育学校 指導教諭)



飛田院長と柴田祥彦氏(右側)

◆伊能忠敬研究会いのうただたけんきゅうかい(代表理事 菱山 剛秀ひしやま たけひで)



飛田院長と菱山剛秀氏(右側)

◆新川二丁目越一婦人部しんかわにちようめえちいちふじんぶ(代表 坂本 喜久代さかもと きくよ)



飛田院長と坂本喜久代氏(右側)



(前列左から)坂本氏、飛田院長、柴田氏、菱山氏
(後列左から)新川二丁目越一婦人部のみなさま(3名)、
四日市総務部長、門協応用地理部長、山後関東地方測量部長

6月8日 近畿地方測量部

◆大窪 健之おおくぼ たけゆき(立命館大学理工学部・教授、研究部・部長(自然科学系))



大窪健之氏(左側)と四日市総務部長(右側)



(前列左から)大窪氏、四日市総務部長
(後列左から)船津近畿地方測量部長、清水同次長

(総務部)

「日本水準原点」の一般公開

国土地理院関東地方測量部では、測量の日記念行事の一環として、5月25日に国会前庭北地区にある「日本水準原点」の一般公開を実施しました。

「日本水準原点」の一般公開は、毎年5月に行っていましたが、この2年間は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催を見送っており、今回は3年ぶりの開催となりました。

当日は天候に恵まれ、全体で約540名の方にご来場いただきました。測量・地図愛好家のほか、「プラタモリ」を見て興味を持った方、授業の一環として見学に来られた地理学専攻の大学生、修学旅行の児童生徒、測量の経験があるベテランの方など幅広い層の方にご来場いただきました。



一般公開の様子

今回の公開では、普段見ることができない「日本水準原点」を収容する建物（水準原点標庫）の開放や設置当時の周辺写真、位置図、構造図、水準測量などのパネルを展示しました。公開開始前から設置準備中のパネルを見る熱心な見学者がいたり、職員から「日本水準原点」の高さの基準としての役割、過去に改定された経緯やその観測方法のほか、測量の歴史の説明に、熱心に耳を傾ける見学者がいたりするなど、「日本水準原点」への関心の高さがうかがえました。また、「日本水準原点」の水晶目盛板や後方の台石・支柱の写真を撮っている方も多く見受けられました。

見学者からは、「普段は見られない建物の内部を見学できて楽しめました。」「台石の文字は歴史を感じます。」などの声が寄せられました。



パネル展示



水晶目盛板を見学

今回は、「日本水準原点」の近傍に設置して観測している「電子基準点（東京千代田）」も紹介しました。電子基準点の内部構造、役割や重要性を説明するとともに、衛星測位により「日本水準原点」を継続的に監視する役割についても説明しました。見学者からは、「電子基準点の大切さがわかりました。」などの声がありました。

たくさんの方に興味を持っていただいたことは、非常に嬉しく思うとともに、今後も引き続き測量・地図の重要性について理解が深まるよう取り組んでまいります。

(関東地方測量部)

第28回「くらしと測量・地図展」を開催

「測量の日東京地区実行委員会（事務局：関東地方測量部）」（以下、実行委員会）は、「測量の日」関連行事として、6月1日から3日までの3日間、新宿駅西口広場イベントコーナーにおいて「くらしと測量・地図展」（共催：東京都、後援：新宿区）を開催し、約5,700人の方にご来場いただきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために十分な対策をとって開催しました。

「くらしと測量・地図展」は毎年6月上旬に行っていましたが、この2年間は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催を見送っており、今回は3年ぶりの開催となりました。今年は、伊能図完成から200年を経過したことから「地図と写真で見る江戸・東京200年」をテーマに、実行委員会の各団体が展示を行いました。



パネル展示

関東地方測量部からは、江戸から令和までの地図と昭和から令和までの空中写真による東京駅周辺、新宿駅周辺の変遷や自然災害伝承碑の取り組みなどを展示しました。

伊能忠敬特設コーナーでは、伊能図（江戸實測図）の床展示と伊能大図・中図、伊能忠敬に関することや、映画「大河への道」に関連する展示を行いました。

動画上映コーナーでは、「赤色立体図と干渉色で見る江戸・東京」、「伊能忠敬測量隊はどのように高尾山薬王院を測量したか」、「大河への道」紹介ビデオなどを上映しました。

通りがかりのサラリーマンや家族連れ、放課後の小中高校生や地理学専攻の大学生のたくさんの方にご来場いただきました。来場者の中には連日通われる熱心な方もいました。多くの方に測量・地図に親しんでいただきました。



動画上映コーナー

また、5月に実施した日本水準原点一般公開に参加し、今回の「くらしと測量・地図展」を知り来場された方もおりました。

来場者からは「『大河への道』を観てからきました。映画に関する内容が深まりました。」「東京都内も大きく変わり便利になったが、低地などの危険性がわかりました。」などの声が寄せられました。

関東地方測量部では今後とも「測量の日」関連行事として、測量・地図等の普及啓発のために本取り組みを継続してまいります。



伊能図（江戸實測図）の床展示

（関東地方測量部）

令和4年春の叙勲・褒章

4月29日、令和4年春の叙勲・褒章受章者が発表されました。

国土交通省関係の叙勲受章者は296名、うち当院関係者では、3名の方が受章されました。褒章受章者は57名・4団体、うち当院関係者では、1名の方が受章されました。



瑞宝中綬章
こまき かずお
小牧 和雄 氏

(元 国土地理院長)



(平成 23 年 1 月退官)



瑞宝小綬章
いちかわ としゆき
市川 俊幸 氏

(元 総務部調整官)



(平成 23 年 4 月退官)



瑞宝小綬章
かいづ まさる
海津 優 氏
(元 地理地殻活動
研究センター長)



(平成 17 年 4 月退官)



黄綬褒章
いなぎ ひでお
稲垣 秀夫 氏
国土地図(株)代表取締役
(一社)地図調製技術協会会長



(総務部)

「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」公開数 令和4年6月23日現在

47 都道府県

415 市区町村

1402 基

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。
[市区町村の担当者の皆様へ] 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

5月の報道発表

12日	令和4年4月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
25日	令和4年度測量・地図の感謝状贈呈者決定 ～「測量の日」関連行事を実施～	総務部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2022年 報道発表資料
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2022.html>) をご覧ください。

7月の主な行事予定

7/20～ 9/25 企画展「地図記号わくわく大図鑑 2022」

行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止又は延期となる場合があります。

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>) に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>